

2009年(平成21年)11月17日(火曜日) 1頁

市場調査会社のジーコム(福岡市)は、福岡都市圏にある主な商業施設の利用状況調査の結果をまとめた。天神地区の百貨店の利用回数が「1年前より減った」と答えた割合が「増えた」を大きく上回り、消費不況による百貨店の苦戦ぶりが改めて浮き彫りとなった。

調査は10月にインターネットで実施。福岡都市圏に住む20歳以上の329人が回答した。この結果、商業施設の利用回数が「増え

1年前より利用「減った」>「増えた」

ワースト上位 天神の3店

調査会社まとめ

「人」と「減った」人の割合の差は、主要14施設すべてでマイナスとなった。マイナス幅が最も大きかったのは岩田屋の16・4%。次いで天神コアの15・8%だったが、三越福岡店が3番目の13・4%、博多大丸が5番目の11・9%と百貨店が上位を占めた。最小だったのは、マリノアシ

提案力には支持あり

ティ福岡の4・8%だった。一方、天神3百貨店とマリノアなど郊外型施設の特長を複数回答で尋ねたところ、「買いやすい価格の商品が充実している」はマリノアの33%、イオンモール福岡ルクルの28%に対し、3百貨店は3〜9%台。逆にファッションなどの「提案力がある」は3百貨店が21〜28%と支持を集め、マリノアの10%、ルクルの7%を引き離している。

百貨店苦戦クツキリ